農業振興普及部だより

みどりのこだま

～ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動～

第78号
平成27年12月1日発行

福島県相双農林事務所農業振興普及部
〒975-0031 南相馬市原町区錦町1-30
TEL (0244) 26－1149
FAX (0244) 26－1169
E-mail：shinkouhukyuu.af06@pref.fukushima.lg.jp

原子力災害からの農業再生

東日本大震災及び原子力災害により甚大な被害を受けた当地方ですが、復旧・復興への歩みは、着実に進められております。今回は、困難に立ち向かいながらも、懸命な努力によって成し遂げられた農業再生への取組を紹介いたします。

～かーちゃんの力・プロジェクト協議会 第56回福島県農業賞の栄冠に輝く～

原子力災害により県内外での避難生活を余儀なくされた浪江町や葛尾村、飯舘村などの農村女性が立ち上がり、平成24年1月に「かーちゃんの力・プロジェクト協議会」を設立。震災前からのつながりを活かし、阿武隈地域の知的財産である食文化を維持・継承するための先駆的な取組が、避難地域の復興に直結するものと高く評価されました。

今後は、加工品開発の取組を通じ、避難指示解除に備えてネットワークの一層強化を図ります。

福島市松川町の「あぶくま茶屋」を拠点に、周辺の遊休農地を解消して農作物を栽培するとともに、阿武隈地域の伝統食を盛り込んだ「あぶくま御膳」を開発して販売するなど、雇用確保にもにつながる「地域産業6次化」モデルとして、他県被災地へも波及しています。

～農産物直売所「いととんぼ」新天地から羽ばたきます！～

平成16年に原町区江井地域の女性農業者らで設立した「江井直売所いととんぼ」は、原子力災害による営業休止という困難に直面しましたが、活動再開に向けた強い想いを持ち続け、原町区北原での店舗整備を進め、平成27年9月18日ついに再出発を果たしました。

今後は、モニタリング検査を通じた安全・安心の情報発信や避難区域等の営農再開の拠点として県内外のお客様から愛される直売所となりますよう御期待申し上げます。

県の事業等を活用し、花き類の栽培や地元農産物を用いた加工品の開発、地域住民と避難者との交流、さらには店舗運営に向けて商品の仕入や陳列等に関する研修を実施するなど、メンバーら一丸となり、たゆまぬ努力を続けてこられました。

新店舗には、食堂兼交流スペースが併設されており、お客様のお腹と心を満たします。

～新たな産地形成を目指して！トルコギキョウ生産部会誕生！！～

長野県での品種展示会研修

相馬地方のトルコギキョウは、飯館村の山間部や南相馬市の沿岸部を中心に栽培されていましたが、津波被災と原子力災害により、栽培農家戸数や作付面積が激減しました。

そのような中、風評の少ない花きへの期待や収益性が高いことから、南相馬市の平坦部を中心に新規栽培者が増加し、平成 27 年 5 月 13 日には、ＪＡそうまトルコギキョウ生産部会が設立されました。

今後は、部会員間での栽培技術の高位平準化を図り、高品質なトルコギキョウの栽培を目指します。

部会員は現在 19 戸で、南相馬市原町区、鹿島区、小高区の農業者で構成されています。震災後に栽培を開始した方も多く、栽培技術の習熟のため日々努力を続けています。

「咲かそうそうま。トルコギキョウ魅力アッププロジェクト」の立ち上げ

9 月 17 日には復興応援キリン絆プロジェクトの支援を受け、「咲かそうそうま。トルコギキョウ魅力アッププロジェクト」を立ち上げました。産地ブランドの強化に向け、市場研修や他産地視察を実施していきます。

～ 快挙！グランドチャンピオン３連覇！ ～

県内有数の生産基盤を誇った相馬地域の和牛繁殖は、震災と原子力災害により大きな打撃を受けました。このような中、相馬市で肉用牛繁殖経営を営む猪狩嘉隆氏は廃業も考えたそうです。しかし息子の祐吾氏が後継者として家業を支えることを決断したことから、補助事業等を活用しながら機械や繁殖雌牛を導入し、規模拡大と母牛の改良を進めました。このような努力が実を結び、第 25 回 JA グループ和牛育成管理共進会で祐吾氏が出品した「いがり 15 号」がグランドチャンピオンに選ばれました。

第 23 回、第 24 回でグランドチャンピオンを輩出した嘉隆氏と合わせ、父子２代で３連覇の偉業を成し遂げました。

祐吾氏曰く「今後も父から技術を学び研さんを重ねていきたい」とのことでした。

福島牛の再興はもとより、地域農業の力強い復興に向けて益々御活躍されますよう御期待申し上げます。

～ 南相馬市の水稲作付の拡大に向けて ～

南相馬市では、東京電力の原子力災害以降の水稲の本格的な作付再開とその拡大にあたり、平成２７年度事業として、平成２８年度水稲の作付を再開する水田を対象に福島県営農再開支援事業を活用し、平成２８年４月２０日までに行う作付準備作業前の代かき等の取組への支援を実施しています。

これは、除染作業が終了した水田のうち、次年度に水稲の作付が再開される見込みの水田について、水稲の作付に必要な「通常の営農活動に追加して実施される耕盤再形成や均平化のための代かき」に要する経費に対して支援するものです。

具体的には、必須作業である代かきと代かきの実施に必要な除草、耕耘、畦塗りの各作業について実施に応じた経費に対して助成を行うものです。

今後、農地除染が進み作付が可能な水田も増加することが見込まれ、作付再開に向けて、栽培に必要な条件を整えるため、本事業を活用していただきたいと考えています。

鹿島区栃窪の代かきの様子

事業を活用し、代かきをした水田（写真右）と代かきをしていない水田（写真左）

目指せ！園芸復興！！「新未来園芸プロジェクト」紹介シリーズ！

【新未来園芸（新たなふくしまの未来を拓く園芸振興）プロジェクトとは？】

福島県のさらなる園芸振興を図るために、各産地の重点品目を集中して支援・推進することを目的としたプロジェクトです。平成 25 年度から平成 32 年度までの８年間が推進期間となります。相双農林事務所農業振興普及部では、「トマト」、「ねぎ」、「にら」、「日本なし」、「トルコギキョウ」を選定しました。今年度の「みどりのこだま」では、これら品目の取組内容と成果についてそれぞれ紹介していきます！

第3弾 にら　～鮮やかに伸びていこう～

【平成 25 年以前の状況】

新地町では、秋から春にかけて日照量の多い気候を生かしてにらが栽培されています。震災前には、ＪＡそうま新地にら部会の会員数は 33 名、栽培面積約 10ha、販売金額１億円を超え、生産量は年々増加傾向にありました。しかし、震災の影響や労働力不足等で生産量が減少しました。

震災後に新設されたハウス

秋冬にらの生育状況

【取組と成果】

震災後、にら部会は、産地再生を目指して活動を始めました。定例会での栽培技術向上を図り、簡易ＧＡＰを実践することで生産工程を改善し、市場と消費者との交流による販促活動等を行いました。現在の部会員数は 22 名となりましたが、被災者がハウスを新設するなどにより、生産量は震災前の約８割に回復しました。

相馬地方の農業の未来を担うA．C．ハマーズ２００１

A．C．ハマーズ２００１とは

相馬地方の青年農業者によって結成された団体です。現在は農業者１７名が、地域農業の振興のために様々な活動を展開しています。

主な活動

- 会員間の情報交換
- 組織運営についての検討会
- 各種イベントでの農産物の販売
- 農業技術向上のための先進地視察研修など

平成２５年度から県の事業を活用し、風評払しょくを目的としたPR・販促活動を実施しています。

今年度は埼玉県でのＰＲ活動のほか、県産農産物を使用した試食イベントなどを予定しています。

埼玉県での PR・販促活動

風評に関するアンケートの実施

活動内容について定例会で協議

相馬地方の若い力！求む！！

A．C．ハマーズ２００１では、今後のさらなる活動の展開に向けて、新規会員を募集しています。

地域農業の復興に取り組む意欲のある方、同世代の農業者と交流を持ちたい方など、加入を希望する方、興味のある方は、農業振興普及部（担当:松﨑・鎌田）までご連絡ください。

農作物のハクビシン被害への取り組み（ブドウ編）

園地外周に電気柵を設置

相馬市でブドウを生産している桃井さんは、毎年ハクビシンの被害を受けていました。

今年は園地に電気柵を設置することで、ハクビシンの被害を抑えることができました。

電気柵設置前は、例年同様、半月で 60 房のブドウが食べられてしまいましたが、園地の外周に電気柵を設置したところ、１か月間被害が止まりました。その後、被害が再発生しましたが、棚の上部にも電気ワイヤーを設置したところ、収穫が終わるまで被害を防ぐことができました。

★園地の外周：電気柵の４段張り（ワイヤーの高さが地面から 5cm,15cm,25cm,35cm）

★棚上部の電柵：散水ホースと事務用クリップを使い、＋線と－線を設置

棚上部に電気ワイヤーを設置

ハクビシンの食害

ハクビシンは夜行性で木登りが得意

リサイクル適正Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。